

# 小委員会の調査報告書

<p>教科名</p>	<p>図画工作科</p>	<p>委員長名 井村雅彦</p>
<p>調査研究の経過</p>	<p>1 審議の概要</p> <p>(1) 第1回調査委員会を7月1日(火)に、稚内市役所5階正庁の間で開催し、図画工作小委員会の委員長並びに副委員長を選出するとともに、調査研究の進め方等について確認した。</p> <p>(2) 7月1日(火)から7月11日(金)まで、「教科書見本本」、「教科書編集趣意書」、「採択参考資料」をもとに、調査研究を進めた。</p> <p>(3) 第2回調査委員会を7月14日(月)に、稚内市役所5階正庁の間で開催し、報告書の作成を行った。</p> <p>なお、調査研究した教科書見本本の発行者(略称)は、日文、開隆堂の2者である。</p> <p>2 調査研究の観点</p> <p>調査研究の観点は次のとおりである。</p> <p>(1) 「取扱内容」について</p> <p>(2) 「内容の構成・排列・分量等」について</p> <p>(3) 「使用上の配慮等」について</p> <p>(4) 「その他」</p>	
<p>調査研究に当たった際の配慮事項</p>	<p>次の点に配慮して調査研究を進めた。</p> <p>1 「取扱内容」について</p> <p>(1) 学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等に基づいて取り上げられているか。</p> <p>(2) 知識・技能の習得、活用、探究に対応できるよう、既に学習した内容の系統的な反復学習や練習問題などによる繰り返し学習に関する内容、観察・実験やレポートの作成に関する内容、他教科との関連する内容、補充的な学習や発展的な学習に関する内容、実生活・実社会に関する内容などがどのように取り扱われているか。</p> <p>2 「内容の構成・排列、分量等」について</p> <p>(1) 内容の構成・排列が、地域の実態や学年の発達の段階等に応じて、系統的、発展的に組織されているか。</p> <p>(2) 内容の分量が、領域等ごと、全体としてどのようになっているか。</p> <p>3 「使用上の配慮等」について</p> <p>(1) 児童の学習意欲を高める工夫がなされているか。</p> <p>(2) 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫がなされているか。</p> <p>(3) 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p> <p>4 「その他」について</p> <p>上記1～3に含まれないもので、全体を通じて特色があれば記載する。</p>	
<p>少数意見その他</p>	<p></p>	

様式 2

教科名		図画工作				
	出版社名	教科書名	番号	出版社名	教科書名	番号
		開隆堂	わくわくするね みんなおいでよ できたらいいな 思いを込めて 心をつないで ゆめを広げて	9	日文	図画工作 たのしいな おもしろいな 見つけたよ ためしたよ 見つめて 広げて
取 扱 内 容	<p>○造形遊びでは、自然材料や人工材料など、材料をもとにした活動と材料の造形的な操作をもとにした活動を配置し、1・2学年では進んで表す態度を身に付けさせ、つくり出す喜びを味わう内容に、第3,4学年では進んで表現する態度を身に付け、つくり出す喜びを味わう内容に、第5,6学年では創造的に表現する態度を身に付け、つくり出す喜びを味わう内容になっている。</p> <p>○ 表したいことを絵や立体、工作に表す活動については、絵では、形や色、材料から発想する絵画題材と班に表す絵画題材と言葉やお話から発想したり経験したことをもとにした伝えたいことや飾るもの、造形的な操作から発想する内容になっている。立体では土の特性を活かしたり雑材を使った立体題材、工作では使うもの、遊ぶもの、飾るもの、伝え合うものをつくる工作題材になっており学年ごとに新しい材料や用具が配置されている。</p> <p>○ 作品などを鑑賞する活動については、身近な材料や自他の作品、身近な美術作品を鑑賞する内容となっている。</p> <p>○ [共通事項]については、第1,2学年では形や色などを基に、3,4学年では形や色などの感じを基に、第5,6学年では形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージを持てる内容になっている。</p> <p>○知識・技能の習得、活用、探求への対応については、はさみやのり、のこぎりや釘、液体粘度など、様々な材料や画材を使い、技能を活用する活動を取り上げている。</p>			<p>○材料を基に造形遊びをする活動については、多様な材料を用いて構成したり、身近な場所の特徴を生かして美しい空間を構成したりする活動を通して、創造的に表現する態度を身につけ、つくり出す喜びを味わうことができるようになっている。</p> <p>○表したいことを絵や立体、工作に表す活動については、心に残った出来事を気持ちが伝わるように描いたり、材料の特徴を生かして楽しいものをつくったりする活動を通して、創造的に表現する態度を身につけ、つくり出す喜びを味わうことができるようになっている。</p> <p>○作品などを鑑賞する活動については、感じたことを友だちと交流したり、日本の伝統的な美術に触れて、生活を豊かにする工夫を味わったりする活動を通して、よさや美しさを感じ取ることができるようになっている。</p> <p>○ [共通事項]については、自分の気持ちを表す形を見つけ、感じたことを表現するなどの活動を通して、形や色などの感じを基に、自分のイメージを持つことができるようになっている。</p> <p>○知識・技能の習得、活用、探求への対応については、材料や表現方法を工夫していろいろなものをつくったり、空間を飾ったりするなど、技能を活用する活動ができるようになっている。</p>		
	内 容 の 構 成 ・ 配 列	<p>○ 内容の構成・配列については、各学年で材料や方法などについて、学校や地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるよう構成し、発展的に学習できるような工夫がされている。</p> <p>○ 内容の分量については、判型をA4判に変更しており、ページ数で第1,2学年で5パーセント、第3,4学年でも5パーセント、第5,6学年では9パーセント前回より増えている。</p>			<p>○内容の構成・配列については、身近な材料や方法などを取り上げ、学校や地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるよう構成し、発展的に学習できるような工夫がされている。</p> <p>○内容の分量については、前回より約33パーセントの大幅増となっている。</p>	
使 用 上 の 配 慮	<p>○ 各巻の巻頭に「小さな美術館」と「ゆめをかたち」を設け、児童の興味・関心に合わせた作品を掲載したり、作家の作品とメッセージを掲載したりするなど、全学年で児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 安全、後片付け、必要な知識・技能や材料など基礎的・基本的な内容を示したり、授業の振り返りを囲みで示したりするなど、児童が主体的に学習に取り組まれるような工夫が全学年でなされている。</p> <p>○ 巻末に、造形活動に必要な知識や技法、道具の使い方などを示した「道具箱・パレットコーナー」や、題材ごとに培いたい力を示すマークを掲載したり、紙面全体の配色や写真の配置を工夫したりするなど、全学年で使用上の便宜が図られている。</p>			<p>○生活の中にある形や色の良さを味わう「ぞうけいのもり」を掲載したり、児童が自由にイメージを広げる「図画工作の広がり」を掲載したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○児童が発想や鑑賞する際の視点を吹き出しなどで表したり、表現の工夫や、振り返りを示す囲みを掲載したりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○巻末に、授業で扱う材料や用具について説明する「使ってみよう材料と用具」や、各題材のページ横に使用する主な用具を示すマークを掲載したり、紙面のデザインや文字の色を工夫したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>		

その他

- 育てたい力を「学習の目標」として明示すると同時に、児童の自己評価をページの最後に設置し、育てたい力との関連を明確にしている
- 環境問題や情報処理等の今日的な課題も、できるだけ児童の身近なところから取り上げ、図画工作科の総合的な扱いの活動例として具体化している。
- 視覚的効果を追求した色彩豊かな教科書を追求し、ユニバーサルデザインを採用するとともに、色覚に多様性のある子供に配慮したカラーユニバーサルデザインを採用している。
- 「投げかけ」や見通しを持って活動できるような工夫の箇所が全学年で644箇所ある。
- 題材ページの冒頭に「学習のめあて」を置き、4つの観点から授業をとらえることができるよう誌面が工夫されている。
- 学校や地域の実態に合わせて活動できるように、特に造形遊びをする活動では同一題材内で屋外での活動と屋内での活動を両方紹介するなど地域性への配慮がなされている。
- 題材ページの各分野の表示は、従来の色のみでの表示から、色とアイコン、文字を組み合わせ、全ての子どもが識別することができるようにするなど、カラーユニバーサルデザインの観点に配慮した誌面のデザインがなされている。
- 「投げかけ」や見通しを持って活動できるような工夫の箇所が全学年で593箇所ある。